

土佐の堅田一族

高知県須崎市吾井郷乙

堅田 貞志



海辺荘の成立

豊後国大野郡緒方に大神(緒方)惟基なる領主が、その勢力と人望を日に日に増していた。惟基には九人の男の子があり、成人後は各地に下り、その土地を自分の姓として名乗り、荘園作りを始めた。

康和年間(一一〇〇年頃)には、大神(緒方)三七族と云う大世帯として勢力を増していった。豊後国海部郡堅田村には、佐伯荘の第一代荘主として佐伯(緒方)惟康が宇山城に居た。(惟基より五代目)

また、一族の緒方惟栄は、平治の乱に源義経に味方し、水軍をもって屋島、壇ノ浦での戦いに参戦した。

屋島、壇ノ浦で破れた平家の家来は、源氏の追手を逃れて、中国、四国、九州の山奥深く落ちのびて行った。そして平家の再興を祈った。

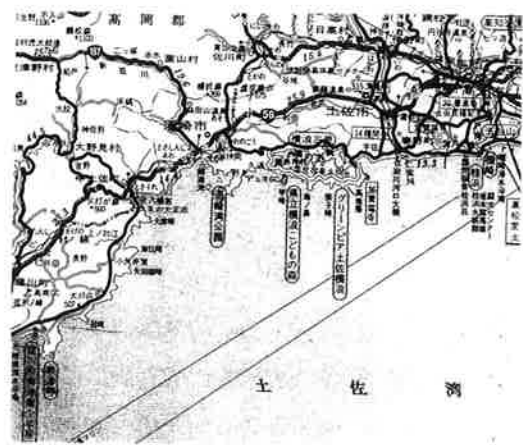
平家の再興あつてはならじと、源頼朝は家来を各地に派遣したのである。九州では緒方惟栄がその命を受け、平家の残党狩りを行い、宇和島方面へも再三家来を派遣した。

その頃、土佐国洲崎浦(須崎)に、豊後国海部郡佐伯荘

堅田村より、佐伯(堅田)某なるものが入国したものとされます。

当時の(一一六〇年頃)の洲崎は、字に書いた通りの浜の州で人家はなく砂浜で、多ノ郷平野はヨシの生い茂った沼がほとんどであったため、桜川流域に居をかまえ、莊園作りを始めた。

吾井郷字森(為貞)付近に居城をかまえた佐伯氏は、民衆と共に開拓にはげみ、吾井郷、桑田山、神田、押岡、多ノ郷、串ノ浦、勢井、野見、大谷、池ノ内の各村々を手中におさめ、海辺荘としてその勢力を増していった。新莊川下流域にも手を伸ばし、新莊と名づけて領地を拡張していった。



南北朝の動乱以前より戦国時代にかけて、半山村姫野々に城を築いて土佐国中部で一大勢力をふるっていた津野一族の元祖、津野孫次郎経高(藤原の姓をくむ)は、元仁元年(一一二四)十数名の家来をつれ、伊予国温泉郡川上荘(現重信町)より、三坂峠を登り、久万をへて仁淀川を下り、宇佐より船で須崎浦に上陸したが、須崎浦には海辺荘主佐伯氏(堅田)の勢力が強く、新莊川上流の半山には北津野氏(別府氏のこと……現仁淀村別府)の勢力が及んでいたために、新莊川支流依包川を逆上り、床鍋に一時身をよせた。

今までの一般的な説では、津野経高は、延喜一三年(九一八)州崎浦に上陸し床鍋に落ち着く、と云われていますが、延喜入国説とすると、津野十八代親忠が香美郡岩村で自刃したのが慶長五年(一六〇二)であるので、通算すると六八八年間となり、これを十八代で割ると一代が三八年となる。二四代で割っても平均二九年弱となりま

八幡荘(佐川町黒岩方面)伝承記によると、建暦二年(一一二二)海辺荘に城主佐伯二郎宗春あり……その居城吾井郷付近……云々とあります。

す。

歴史学者は、通念として一代を二十年から二十五年までとして計算します。(一代とは、成人して親に代をまかされ、子に代をゆずるまでの間のこと)

経高が延喜十三年に土佐に入国したとすると、経高の父経実は、天承元年(一一三二)に六四歳で没しているの
で、この経高が土佐に入国した時には、父経実は生まれていなかったこととなる。等により延喜入国説は間違いで
は……と研究していた処、昭和五年に葉山村が村史を
発刊、その内容にこの問題に触れており自信をもった。

しばらく床鍋で過ごした経高と家来は、梶原へ行き開拓を始め、津野荘を開いた。

年たちは、梶原荘を開拓した津野一族は、その勢力を次第に増し、梶原より東へ進出、新田、船戸、葉山へと領域は拡大されていった。そして海辺荘の堅田(佐伯)が目の上のコブとなりだした。

もし堅田氏と一戦を交えることとなれば、その要塞がある。一番先に目をつけたのが葉山村新土居滝山の古城である。

一名三峯山といわれ、山城としては攻撃によく、防御

に勝る地理的条件のよい地点である。新莊川を攻め上っても、佐川、斗賀野方面よりクチキ峠を越して攻めても、この地点の近くを通らねばならない所である。

津野氏はここに出城を築いた。そして海辺荘の堅田氏に対して威かくをあたえた。

その後、津野氏と海辺荘の堅田氏との間にどのような小競り合いがあったか、当時の資料は何もなく、わからないが、津野氏と堅田氏は手を結ぶこととなり、勢力の拡大を図ったが、津野氏は海辺荘を手中に納め、津野荘の統一を図るための基礎をつくった。

この頃より海辺荘の居城も攻防ともになすぐれ、地理的条件をも備えた新莊岡本の山頂に移り、岡本城ここにありと烽火を上げることになった。

つづく

備考

この当時の歴史を物語る古文書は全くなく、須崎市史・葉山村史・東津野村史・梶原町史・佐伯市史・八幡荘伝承記・土佐国とかん集拾遺・南路誌・官宜旨案・その他関係図書を参考にさせて頂きます。

昭和五年十二月五日、高知県文化財保護委員・池田先生に吾井郷の阿弥陀堂の仏像を調査してもらった。処、平安時代末期から鎌倉時代初期(一一〇〇)〜

一二〇〇年頃)の作であることがわかりました。また境内には五輪塔もあり、何か海辺荘の開拓時代との関連が深く感じられます。

佐伯(堅田)氏略系図

(大分県佐伯市堅田 大神一郎氏所蔵 大神氏系図による)

